

香川の創業者たち

②

朝採りイチゴ届ける

朝採ったばかりの完熟イチゴをそのまま届ける農園を展開するスカイファーム(高松市)。「朝採り完熟」ブランドへの支持は増えており、九月末には独自開発したイチゴのソフトクリームなどを楽しめる飲食施設を農園内にオープンさせる予定だ。川西裕幸社長(三互)は「地元農家が愛情を注ぎ込んで育てた農作物を味わえる拠点にしたい」と意気込んでいる。

「採れたて」「安全」が信条。「朝採り完熟」は、早朝に収穫したものを、正午までに直接契約した県内のスーパーや飲食店に出荷している。作業のしやすさや衛生面から、地上約一・五層の高さで育てる高設栽培を導入。農薬の使用も極力控



川西裕幸社長

えており、イチゴに害のない虫を活用した生物農薬に加え、土中の病原菌の繁殖を抑えるナットウ菌などで対応している。もう一つ、グループ栽培を導入しているのも特徴。安全面や栽培理念に賛同した三農家と、育て方や農薬の使用基準などを統一。この三農家からイチゴを買い入れるシステムもつくり、不作のリスクを分散したほか、安定した収穫量を確保。これにより、販路開拓も格段にしやすくなったという。今ではグループ栽培面積は当初の一・五倍の約一万三千二百平方メートル

スカイファーム(高松市)



「採れたて、安全」にこだわって栽培されるスカイファームのイチゴ

も上る。これは個人農家の農作物への思いを大切にしながら、企業の発想を組み込んだ新しい農業を目指

す取り組みで、ミカンなどイチゴ以外の農家に対するコンサルティングも手掛けていく方針だ。川西社長は食物工場での勤務を経て、一九九八年にイチゴ農家に転身。三年間、がむしゃらに頑張った結果、収穫量は増え、ジャムなどイチゴの加工品の製造・販売などを考え始めた時だった。地主で設備会社社長のアドバイスから「農家にも営業企画・販売の企業的な経営手法が必要」と気付けられたという。そして、理想とする農業経営体を目指し、地主らの出資を受けて二〇〇四年十一月に会社を設立した。

今後、農業分野での起業支援や研修生の受け入れ、農業体験事業にも取り組んでいく予定。全国的に担い手不足が心配される中、川西社長の取り組みが広がれば、県内農業の底辺拡大につながるとの期待は大きい。



農家にも出荷先にも喜んでもらえる新しい農業を提案したい。同時に顧客に感動を与える付加価値の高い農産物を追求したい。イチゴに限らず同じ志を持つグループ農家の輪を広げ、個性や品質を磨きながら共に成長していくことが大切だ。